



トリック

TRICK

2011.7
第5号

ニュース

震災後の新しい医療のあり方を目指して



森澤雄司

栃木地域感染制御コンソーシアム TRICK' 代表世話人
自治医科大学附属病院・感染制御部長、
感染症科（兼任）科長、感染免疫学准教授
職業感染制御研究会・幹事
日本環境感染学会・理事、評議員、教育委員

東日本大震災から数か月が経過しました。多くの人命が失われ、多くの避難者がなおも行き場を失い、そしてまた福島第一原子力発電所は依然として予断を許さない状況にあります。私たちの栃木県も被災地であり、東北地方のような激甚な被害ではありませんでしたが、病院の中にも建築構造への大きなダメージから診療機能を失ったところもありました。また、震災の当初は現代の医療に欠かせない電力供給に大きな不安があり、自家発電のための重油の確保に奔走していた施設も少なくありませんでした。JRをはじめ公共交通機関も不安定であり、自動車のためのガソリンも入手できず、通勤すらままならないままに病院に泊まり込んだ医療従事者も数多くみられました。診療機能を失った施設から患者さんを受け入れた病院もあり、私たちも東北地方などからの転院症例も含めて対応させていただきましたが、それぞれが地域医療の現場を守るために、出来る限りの無理をして、それぞれの責務を果しておられたことと思います。

大学病院は比較的早期から計画停電を回避していただけたこととなり、約3週間の経過で検査や治療の件数は概ね震災前の状況に回復しました。その後も病床稼働数はやや少なめで推移していますが、中央手術部の手術件数、外来診療件数や救命救急センター外来の受診者数も回復したとあってよい状況になりました。私たちの自治医科大学附属病院では、栄養部も緊急時のための在庫が確保されていたことに加えて、物流が早期に回復したことにより概ね問題はありません。ちなみに私たちの病院では上水道は地下水を自主管理しており、検査の結果を踏まえてRI汚染の問題がないことを確認しています。また、病院におけるその他の物品の流通についても、乾電池やティッシュペーパー、ペーパータオル、などのような一般家庭用品が震災の当初には品薄であったことが印象的でした。本来的には、希少品であるはずの医療器材がある程度まで供給されているのに、平時であればどこにでも売っているはずの一般家庭用品の入手が困難であるとは興味深い事態でありました。AC公共広告機構が喧伝していたように、不要な買い溜めは被災地にとっても大きな迷惑となっていたということでしょう。驚くべきことに、私たちの病院でも病棟から外科マスクやペーパータオルまでが患者家人などの外来者による盗難の憂き目に遭いました。一般の方々からは「病院にはモノが溢れている」と見えたのかもしれませんが。私たち医療を提供する側が一般の国民・県民に医療を取り巻く環境に関して十分な情報を提供できていなかったのかもしれませんが。しかし、医療を受ける側の皆さんにも医療体制を維持するために御

協力いただく必要があったのです。すべての国民・県民に想像力と思いやりが求められていると言ってよいかもしれません。「思い」は見えなくても「思いやり」は見えるらしいですから。

「神は乗り越えられる試練しか与えない」というフレーズはマンガやドラマの“仁 -JIN-”のおかげですっかり有名になりました。みんなで力をあわせてこの苦境を乗り越えたいと思います。「心」は見えなくても「心遣い」は確かに見えるのかもしれませんが。「心遣い」と「思いやり」を持ち寄った「小さな協力」の積み重ねが、明日の新しいわが国、新しい栃木県を創ることを信じています。



施設相互ラウンド報告

*ご厚意により、TRICK ニュースへの掲載（写真を含む）の許可を施設から頂いております。

施設相互ラウンドに参加して

庭田 昇（小金井中央病院 薬剤師）

昨年同様、同じ TRICK メンバーで T 病院の施設相互ラウンドを実施しました。ラウンドでは、前回のラウンドから改善に向けてかなり努力をした様子が随所に見受けられました。標準予防策の面では、ペーパータオルがほとんどの手洗い場に、また速乾性アルコールもかなりの場所に設置され、期限管理もきちんとされていました。医療行為の面では、ミキシング台が空調直下より移動され、清潔にミキシングされる環境となっており、単包のアルコール綿も導入され、包帯交換車、ワゴン等が前回ラウンドよりもすっきり整理されていました。環境管理の面では、トイレスリッパが廃止され、床もきれいに管理されていました。洗浄行為を行う流し場にスポンジが多数見受けられ、前回よりも大変きれいになってはいますが、更なる検討をお願いしたいです。廃棄物・リネン関係の面では、リネン類は清潔不潔の交差がなく、完璧でしたが、感染性廃棄物については移し替えを絶対にやめるべきだと思われまます。滅菌と消毒の面では、衛生材料有効期限や滅菌物の管理方法に疑問を感じました。また病棟での一次洗浄も今後検討が必要だと思われました。その他、器具の取り扱いの面では、オムツ交換車に必要な器材が配備しており、オムツ交換時の PPE の装着も適正に行われていました。また感染とは直接関係ありませんが、抗菌薬の皮内テストが行われているようでした。皮内テストは擬陽性の確率が高く、テスト時の安全性確保の問題もあり中止するべきだと考えます。職業感染予防策の面では、針捨てボックスが有効に活用されていましたが、リキャップ針が多く見られました。針刺し事故防止のためマニュアルの作成、徹底が臨まれます。

以上のように今回の 2 回目のラウンドにより、課題が鮮明化・明確化しましたので、今後も連絡を取り合い改善活動のお役に立てれば幸いです。T 病院の皆様、ラウンド参加の TRICK メンバーの皆様、ありがとうございました。



【洗面所用洗剤が手指消毒剤容器に入っており容器に名前の記載がない】



【容器が浮かんでおり浸漬不十分】

昨年に引き続き、O病院の循環器・脳外科・ICU：51床の施設相互ラウンドを実施しました。昨年度のラウンド時に、TRICKメンバーからの多くの質問事項、指摘事項（もちろん、良いところもたくさんありましたが）をお返ししたので、セカンドラウンドが実施できないのではないのか？と一抹の不安がありました。しかし、O病院のICTの方々に快く迎え入れてもらい、セカンドラウンドが実現しました。今回は、医師1名、薬剤師2名、看護師2名の5名で訪問し、2チームに分かれてラウンドしました。

私の第一印象は、「1年でこんなに改善できるんだ！すごい」というものでした。感染性医療廃棄物の廃棄方法、个人防护具の導入、患者個人用蛇腹の導入、消毒薬の管理、滅菌物の管理方法など……。1度目のラウンド時に、なぜそれがいけないのか？感染対策上必要なのか？他の施設はどのような対応をしているのか？など、ICTとTRICKメンバーが密に意見交換ができたことが、改善につながっていると思いました。しかし、改善の一番の要因はO病院ICT・リンクナースが感染対策の問題意識を持ち、多部門との協働により対策を実行した結果だと思っています。

下野新聞の3回の連載～「耐性菌感染」どう防ぐ県内医療機関～は、TRICKの施設相互ラウンドが取り上げられ、2010年9月16日の下野新聞に掲載されました。『TRICKの最大の特徴は、感染対策に独自のチェックシートを使い、メンバーが所属する病院の管理状況を別のメンバーが第三者の目で調査する取り組みだ。「施設ラウンド」と呼ばれ約50のチェック項目を点数化し改善点も明確になる。』と書かれています。今後も継続的に実施することで、地域の感染制御レベルの均一化と向上に貢献できると考えております。

また施設ラウンドの成果を、第26回日本環境感染学会において、報告しました。『TRICKで実施した施設ラウンドの効果』O病院、T病院の回のラウンドについて、具体的にチェックシートの点数がどのくらい変化があったのか等を比較検討しました。詳細は下記をご参照ください。

<http://www.infosesa.com/jsei2011/home/showSearchDetail/9992>

今後もTRICKの活動を通して、自施設のレベルアップにつなげていくだけでなく、地域における感染制御レベルの均一化と向上のお手伝いできればと思っています。

施設相互ラウンドに参加して

野中正美（特定医療法人 厚生会 西方病院 医療安全対策室）

今回のラウンド対象施設は、県内巨大施設であるJ病院でした。中小施設とは、コスト面また設備環境面での様に違うのか、どの様な工夫がなされているのか、大変興味を持ちラウンドに望みました。ラウンドメンバーは、TRICK会員のラウンド隊長、池澤さん（国際医療福祉大学病院・感染認定看護師長）、庭田さん（小金井中央病院・薬剤師）、別井さん（とちの木病院・看護師）、渡辺さん（小山市民病院・感染管理認定看護師）、私、及び対象施設同行者2名の計7名。消内科、消外科一般外科、内視鏡センターの3部署が対象でした。

どの部署共に驚かされた事は、「物の配置、管理」が徹底されていた事です。これは医療安全の考え「クリ

滅菌物の管理

1回目のラウンド時



2回目のラウンド時



単包化に変更され横に保管されている！



ニカル 5S」にも通じる事で、感染制御の基本となるものと考えます。①資材室での床上距離と滅菌物、滅菌様式を考慮した配置、②採血、点滴カート内物品の定数管理、③患者採血、検体はステーション入り口に配置し、持ち込まない etc、各器材の配置場所がマーキングされ徹底されていました。次にあらゆる所に明文化された物が貼付されており、スタッフ間の統一が図れる様工夫されていました。①廃棄物入れに内容、方法など明記、②外来ゴミ箱区分の明記（また蓋に触れずに捨てられる足踏み式）、③薬剤の希釈方法明記 etc。また各部屋、器材処理エリアに PPE 配置がされており、スタッフは迷う事無く PPE が訓練され、身に着く事と成ります。勿論、内視鏡センタースタッフは、きちんと PPE が実施されていました。看護師は当然、看護補助職の方々まで清潔、不潔の感性も十分な教育が成されている様で、①各部屋水周り、②処置室水周り、③蓄尿関係、④ミキシングテーブル、⑤包交車はもとより、⑥頻回に使用されない器材（除細動 etc）の足回りもピカピカと磨かれていました。使用するスポンジは市販の 4 分の 1 程度に小さくカット、使用後は破棄しているようで、感染制御のほかに、コスト面での考慮も伺えました。処置室ミキシングテーブル上には、針捨てボックスが常備されておらず、一定のミキシング終了時テーブル上から片付けるそうです。これは針刺し防止の為だそうですが、色々な種類の針捨てボックスが使用されているのが現実で、針刺し防止の観点から、使い勝手、安全面を検討、種類の絞り込みが必要と考えていると説明が有りました。空調環境は設備担当者が中央管理し、定期的に陰、陽圧含め、メンテナンスが実施されていました。

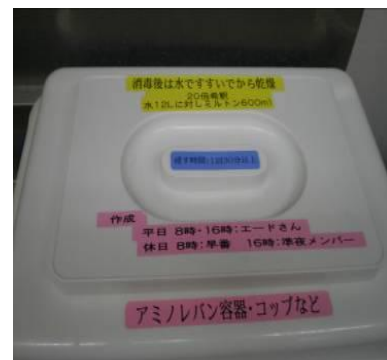
施設ラウンドメンバー、対象施設同行者、皆様の協力を得まして、無事施設相互ラウンドを終わる事が出来ました。大きな施設も、中小施設も、感染制御に関し違いはありませんでした。①スタッフ教育を充実させ、感染制御に対する感性を身に付ける事が出来るか、②設備環境、コストを掛ける事だけではなく、アイデア、工夫でカバーする。当院では感染に対する感性は、まだまだ低く、他の施設をラウンドさせて頂く事で、自分の施設の改善点に気づき、1 歩ずつスタッフと共に感染制御の根を張らせていく事が、今後の感染制御活動に、大きな力を得る事になると思います。感染制御活動は、決して 1 人では出来ません。この様な機会を頂きまして、大変有り難う御座いました。



【汚物処理室】
整理され、清潔が保たれている
床元は「すのこ」で工夫



【採血・点滴カート】
手指消毒剤、針捨て容器も設置
針捨て容器の絞込みが今後の課題



【洗浄容器】
薬剤希釈法が明記されている
担当者も明確に記載されている

お知らせ

TRICK では、下記の活動を募集しています。

◆「みんなで考える感染対策」講習会

「講演会」や「実技講習会」をわかりやすく、楽しく学べるように工夫します

◆「施設相互ラウンド」

TRICK の相互ラウンドにより、医療施設相互の情報共有化をはかり、改善策を提案します。

【問い合わせ先】自治医科大学附属病院感染制御部（FAX 0285 - 44 - 6535）

TRICK メンバーからの一言

獨協医科大学病院 感染制御部 千原 晋吾

こんにちは。獨協医科大学の千原晋吾です。アメリカで7年間、内科・感染症内科・臨床微生物学のトレーニングを行い、2009年の夏に帰国した際に、TRICK に入りました。このたび、2年間過ごした日本の感染制御に関する個人的な意見を述べさせていただきます。

日本は先進国と位置付けられていますが、医療の分野では必ずしもそうといえないところがあります。たとえば、未承認のワクチンがまだ多く存在し、入院日数は他の先進国の2倍以上ですし、いまだに入院中は大部屋を使用することが一般的です。特に、大部屋を使うことは感染制御に大きな影響を与え、全個室が基本となっている米国から出ている CDC のガイドラインなどは日本の現場に適さないことがしばしばです。また、日本には CDC に相当するような組織はありません。このため、現場では“ガイドライン”を遵守することよりも、状況に応じた知恵・工夫が求められます。つまり、日本では施設の感染制御に携わっているスタッフの力量がものをいうのです。このような現状で、TRICK は現場のスタッフが施設を越えてノウハウをシェアする最適な場所であると考えています。

この夏、栃木県から移ることになりました。私自身 TRICK にあまり貢献できませんでしたが、TRICK が今後とも益々発展されますよう心からお祈り申し上げます。2年間、ありがとうございました。

TRICK メンバーからの一言

ときの木病院 看護師 別井 一之

はじめまして、「とちの木病院」看護師の別井と申します。TRICK に参加し3年目となります。今まで様々なテキスト・講習会・勉強会へ参加し当院における感染対策を Dr と講じてきました。感染に携っている方なら一度は「今、実施している対策が本当に正しいのか、他に対策が有るのでは、他の病院はどのように対策を取っているのか」疑問と不安にかられた経験が有るのではないのでしょうか、そんな時、森澤先生の講演を聴き栃木の地元に TRICK の存在を知り参加させて頂きました。

現在、当院が一番「TRICK」から良きアドバイスを頂いているのではないのでしょうか、入会初年度に松岡院長の御理解・協力もあり、ファーストラウンドを受け入れ、昨年はセカンドラウンドを実施して頂きました。「ラウンド？」＝「視察・監査・小姑みたく嫌味を言われる」とイメージされる方も少なくないと思いますが、TRICK ラウンドは、そうではありません。私も、そのイメージが強くファーストラウンド前日には、ラウンドフロア-の環境整備を行い「来るなら来てみる」の構えで臨みましたが、やはり大きく違っていたようです。チェックシートを基にラウンド実施となりますが、普段私達が見過ごしている箇所のアドバイス、ラウンドメンバー施設での対策など様々な情報交換が出来ました、特にラウンドを受け入れて良かった事は、当院の構造・設備・環境状況を考慮しアドバイスをして頂いた事、CDC ガイドラインの様に完璧な対策は困難と知り肩の荷が下りた気がしました。「TRICK ラウンド」は個々の施設・設備状況に応じて最善のアドバイスをしてくれる事でした。セカンドラウンドは、前回アドバイスを頂き改善出来た箇所と改善出来なかった箇所もありますが、「ありのまま」をラウンドして頂き新たに対策改善へと繋がりました。

最後に、感染対策に関わっている方々において、「施設側・上司・スタッフの感染への理解が薄い、対策が守られない、対策が進まない」など様々なハードルがあると思います。その様に感じ、悩まれていたら多少勇気が必要かと思いますが、第三者に「ありのまま」を見てもらい、貴施設の状況を考慮し最善のアドバイスをしてくれる「TRICK ラウンド」の活用をお勧めします。

TRICK では、地域における感染制御を目的に、保育園・幼稚園や学校、コミュニティー活動の場において感染対策の正しい知識や技術の普及、啓発活動を行っております。2010 年はその活動として、宇都宮市桜小学校と 2009 年も実施している雀宮中央小学校の 2 校で手洗い講習会を実施しました。

宇都宮市立 桜小学校

2010 年 10 月 26 日(火)

午前中 2 クラス

5 年生児童およびその父兄を対象

1 クラス 60 分

講師: 吉村(自治医大)、野澤(芳賀日赤)、松本(小山市民)、神田(社会保険)、星(白澤)

宇都宮市立 雀宮中央小学校

2010 年 11 月 19 日(金)

午前中 2 クラス、午後 1 クラス

2 年生児童およびその父兄を対象

1 クラス 45 分

講師: 森澤(自治医大)、金澤(芳賀日赤)、館野(社会保険)、神田(社会保険)、星(白澤)

対象が 2 年生の雀宮中央小学校では紙芝居「あわあわ手洗いクイズ」を使用し勉強、手洗いの実技には「あわあわ手洗いの歌」をみんなで歌いながら手洗いの方法とその大切さを学びました。手洗いの効果確認は、皆さんご存知のグリッターバッグを用いました。一方、桜小学校では身の回りに居るバイキンについて勉強し、手指衛生の大切さについて学んだ後、事前に児童の手指からサンプリングした、細菌培養の結果を見て頂きました。勿論、手洗いの実技は行いました。児童も父兄もシャーレに生えた細菌をのぞき込み、ビックリ!!声を上げていました。尚、講習会実施に際して事前と実施後、更に半年後にアンケート調査を行っています。

以下に小学校での講習会風景とアンケート結果をお示しします。

父兄の方も沢山いらっしゃいました(桜)



吉村先生の講義風景(桜)



神田さんの手洗い指導(雀)



身振り手振りの館野さん(雀)



「みんな一緒に」と金澤さん(雀)



洗い方を指導する野澤さん(桜)



実施後のアンケート感想より(一部)

- ☆ ノーコメント
- ☆ いつもちゃっちゃと済ませていたらすごく汚かったです。
- ☆ よく洗ったはずなのに、汚れが取れなくて大変だった。でも楽しかった。
- ☆ 最初、親子レクで「手洗い教室」をやると聞いた時は、あまり気が乗らなかったけれど、実際やってみるととても楽しくて分かりやすくて良かった。
- ☆ 色々な菌がいて気持ち悪いなと思いました。
- ☆ あまり体験できない事をやらせてくれたのですごく楽しかったです。いつも手洗いをしてよく洗えていない所がたくさん分かる事が出来て良かったです。
- ☆ まあまあ楽しかった

親子?!で手洗い(桜)



みんな真剣に手洗いをしていました(桜)



(雀)



児童の手指からのサンプル培養です(桜)→

良く洗えたかブラックライトで確認!!

(雀)



(桜)



みんな見てビックリ!!(



お母さん方もビックリ(桜)



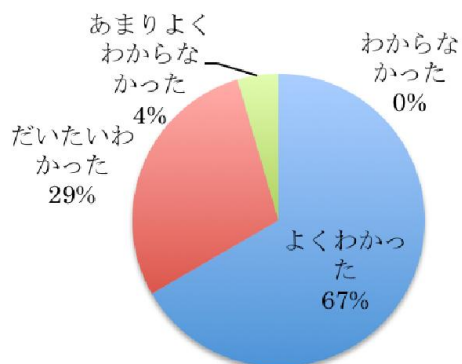
インタビューする野澤さん(桜)



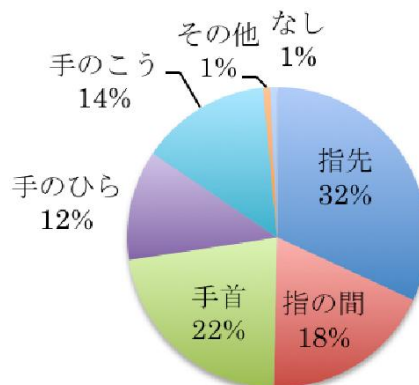
桜小学校での TRICK スタッフです



手洗いの勉強会はよくわかりましたか？



手洗いの練習で白く見えたのはどこですか？
(複数回答)



◆あなたの手洗い大丈夫ですか？「手洗い」講習会

感染対策において、最も重要かつ基本である手指衛生!!

「実技」でわかりやすく、楽しく学べるように工夫します。

手から手へ、うつっちゃいやよ、病原菌



TRICK'K'からのお知らせ

◆TRICK ホームページ <http://square.umin.ac.jp/trick/index.html>

入会申込書、出張講義の依頼書、TRICK ニュースのバックナンバーがダウンロードできます。

◆入会希望の方は TRICK ホームページより入会申込書をダウンロードして、必要事項記載のうえ、入会申込書内の書類提出先へ郵送・FAX またはメールにて送付して下さい。

編集後記

今号は、施設ラウンドのセカンドラウンド報告、小学校手洗い講習会の活動報告を掲載させて頂きました。第6号は第

3回とちぎ感染担当者情報交換会、ラウンド報告など掲載予定です。乞うご期待!! (N.N)

トリックニュース

発行者: 栃木地域感染制御コンソーシアム(TRICK)

代表者: 森澤 雄司

編集委員: 庭田 昇 神田 直美 編集協力: 高岡 恵美子 野澤 彰

連絡先: 自治医科大学附属病院 感染制御部 E-mail: takaoka@jichi.ac.jp (高岡)

329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1 FAX : 0285-44-6535

